

## 縄文人の住居跡の可能性も指摘 ～小林教授～

おらほの遺跡 「国指定史跡 伊勢堂岱遺跡」調査指導委員会

10月12～13日にかけて、伊勢堂岱遺跡調査指導委員会を開催しました。この委員会は考古学、保存科学、植物学、民俗学などの専門家で構成され、伊勢堂岱遺跡の調査や史跡整備について助言をいただくものです。

今年は環状列石Bの調査を行なっています。環状列石Bは他の列石と違い、弧状であり環状にならない特徴もっています。これには「未完成の環状列石」説と、後の時代に壊された説という2つの説が考えられています。そのような謎を解明するために、今年は環状列石Bの未調査部分である南半分を発掘しました。調査の結果、南側の石がまばらであり、後世のかく乱もないことから、未完成の環状列石であったことがわかりました。

また、4つの環状列石のほかに環状列石があるか調べるために、ハンドボーリング探査を実施し

ました。ハンドボーリング探査とは、ステンレスの棒を地中にさし、石があるかどうか調べる調査です。調査対象面積が1万㎡ですので、なんと一人あたり約1万回さしたことになります。

ハンドボーリング探査の結果から、調査指導委員長で世界的な縄文文化研究者である、小林達雄国学院大学教授は、「石が極端に少ないところがある。そこには環状列石をつくった縄文人の住居が存在するかもしれない」と発言されました。実は20万㎡の広さがある伊勢堂岱遺跡には、縄文人の住まい(竪穴住居)が1棟もみつかっていないのです。では、4つの環状列石をつくった人々はどこから来たのでしょうか。伊勢堂岱の近くに集落があるのでしょうか？

私たちの宝、伊勢堂岱遺跡の謎はさらに広がります。



調査指導委員会の様子

指導を行う小林達雄国学院大学教授(伊勢堂岱遺跡調査指導委員長)



ボランティアグループの皆さんも熱心に傍聴しました



説明する榎本学芸員

## 学びの広場

公民館活動 生涯学習  
文化振興 学校 スポーツ

地域で学び、活動する  
皆さんを応援します

北秋田市  
教育委員会

どこの作品も丁寧に仕上げられ、割れることもなく無事に焼き上げることができました。受講生の縄文へのそれぞれの「思い」が込められているような立派な作品が出来上がりました。

今回の作品は8月20日の講座で作ったもので、縄文まつりにおいて野焼きをする予定でしたが、雨天のため火入れができず、この日講師の地代登さんのご指導のもと20点ほどを野焼きをしました。

### 縄文文化を肌で体感

中央公民館公開講座(縄文土器づくり)



自分だけの縄文土器が焼きあがりました

### スポーツを通しての交流(阿仁・鷹巣)

気楽にスポーツ講座交流会

10月20日、「気楽にスポーツ」ウォーキングが青森県深浦町の十二湖で開催されました。

今回は、阿仁公民館の講座受講生12名も加わり、計23名合同の講座となりました。バスの中ではお互いの公民館活動などについての情報交換をしながら現地へ向かいました。

天候にも恵まれ、青池など十二湖周辺を1時間ほど散策し、その後は日本キャニオンの大自然と色付いた絶景を満喫してきました。



十二湖(青森県深浦町)で行われた交流会

### 作品作りでの交流(合川・森吉・阿仁)

ビーズ手芸講座 交流研修会

10月18日、合川・森吉・阿仁の各公民館の手作りビーズ手芸講座受講生40名が交流を行いました。

会場は、青森県黒石市落合温泉郷の一角にある折り紙陶芸センター青森工房の嶋津晃代先生ご指導のもと、和紙利用の「折り紙鶴陶芸作り」に挑戦しました。

日頃、指先を使ったビーズ作りをしていることもあり、それぞれに個性ある素晴らしい作品を作ることができました。作品が手元に届くのが1ヶ月先ということで、とても楽しみにしている様子でした。



青森県黒石市の「津軽伝承工芸館」で交流